

平成 15 年 03 月 07 日 (金) ~ 09 日 (日)

第 4 回

四国あるき遍路の旅

高知 = 修行の道場

神峯山頂上にある「空と海の展望公園」展望台よりの眺め

24 番最御崎寺 ~ 29 番国分寺まで

第 1 日目 (3/7)

7:50 羽田空港集合。

8:30 羽田発、ANA561便。

9:50 高知空港着。

空港に着くなり、いきなり「あるき遍路」となりました。

出発地の千葉や羽田は大雨でしたが、飛行機で低気圧をひとまたぎ。風は強いものの快晴の高知は、空海の名にふさわしく空が広いです。

高知大学・高知高専の脇を通り、物部川沿いをさかのぼって「野市」の町に入ります。最初にお参りする二十八番大日寺までおよそ六キロ。川沿いのこともあり、余計に風が強く、住職は網代笠をかぶれずに歩き、季節はずれの日焼けをしました。

11:30 二十八番大日寺着。

物部川を渡り、人家の比較的多い平坦な道を進むと、突き当たりには古びた石段が見えました。札所にしてはずいぶんみすぼらしい石段だったので、まさか二十八番への参道とは誰も思いもしなかったでしょう。石段の入り口にある札所の「寺号石」を見つけて、ようやくここが大日寺だと知りました。徳島でさんざん苦渋をなめた石段です。だれもが石段がどこまで続くやらと、山の上を見てお寺の屋根を探します。福田さんが、「すぐ上に屋根が見えたからあそこだ、すぐ上だ」とはいうものの、一同安堵の気持ちは 60% ぐらいにしておきます。徳島で何度も期待を裏切られた遍路たちの知恵かもしれません。

福田さんが見つけた屋根が大日寺のもので、ほんの準備運動程度の登りでお寺に着くことが出来ました。札所にしてはごちゃごちゃしていなく、静かな人里のお寺という風情でした。般若心経を詠んでお参りを済ませ、先を急ぎます。平山さんがそろそろ、お昼ごはんとは騒ぎはじめる時間になっていましたから……。



物部川の堤防で

二十八番
大日寺





大日寺を後にし、「土佐山田」の町を目指します。地図で見ると比較的大きな町に感じられ、間違いなく食堂があると予感したのです。稲田さんが遍路地図に載っていない道を探してくれていましたので、一路土佐山田へ6キロぐらいでしょうか。再び物部川を渡りいよいよ土佐山田の町へ入ります。ところがいつもの事ながら食堂がありません。途中「良心市」で買ったみかんを食べたり、アメをなめたりしながら、騒がしくなる平山さんの口と、それぞれの胃袋をなだめて歩き、ようやく駅前で食堂に入り、日替わり定食にありつけました。世の中不景気でもあり、テイシヨクにありつけるのは難しいと実感致しました。

ここで、予想外のことが起こります。駅前の食堂は空腹の虫を収めてくれましたが、同時に弱気の虫を刺激したようで、誰からともなく電車で二十九番の近くに行けるのではとの話が持ち上がりました。こうなると話は早いです。二十九番の最寄の駅はどこだ、電車の時間を聞きに行こう、それ切符を先に買いに行け、ごはんを急がせろ、と矢継ぎ早の対応。あれよあれよという間に、土佐山田から「後免」駅まで電車で揺られ、後免駅から二十九番を目指すことになりました。

二十九番国分寺着。

後免駅から平坦な道を約40分。その昔、国ごとに建立された国分寺。土佐のそれがここです。柿葺き寄せ棟の本堂にその風格が感じられます。また、仁王門から本堂への参道もしっとりした落ち着きがありました。

予定では、この後三十番善楽寺まで行くことになっていましたが、陽も傾きかけ、歩きで向うのは時間的に無理と判断し、今日はこれで終わりにして、宿に向うことにしました。

とかく、次へ次へと急ぎがちになる普段の生活から離れ、まして出来るだけ歩きでという私たちの遍路では、バスに乗ってまで次の札所に行くのは不本意なわけです。ここで、バスを使ってしまうとだんだんそれが当たり前になる可能性を無くすには好判断だったと思います。なにより、土佐山田から後免まで、電車を使ってしまったのですから…。まあ、のんびり行きましょう。



二十九番
国分寺



勇気をもって宿に向うことにした私たちは、後免まで戻り、路面電車で高知を目指すことになりました。

JR後免駅を過ぎて、約300メートルほどで路面電車通りに出ます。右に曲がって100メートルの所に「後免西町」駅があります。ここから宿までは、乗換なしで約40分ほどで行くことができます。バスや電車と違い、本数も沢山あり、

まずは一安心。路面電車の姿を見て、ようやく宿に行けると心から安心。四国はバスも電車も本数が少ないという固定観念が根付いたお遍路さんは、その姿を見るまでは安心できない習性なのです。

すっかり傾いた強い西日に向って、レトロな路面電車が走ります。車内には、電車の揺れに任せてまどろむお遍路さん、ひもじい思いをした一日を思ってか、物思いにふけるお遍路さん、はじめて見る街を車窓から眺めるお遍路さんなど、へんろ第一日目をそれぞれが締めくくっています。今晚の食事と飲物を心配する数名を除いては・・・。

板張りの床といい、レトロな車内。



さすがの耕も少々くたびれた様子。



遠足帰りのいたずら坊主とママ。



地下足袋を自慢する平山さん。

第2日目 (3/8)

6:20 ホテルロビー集合。

お遍路さんの常識である、早朝出立。でも、最近は旅慣れてきて、朝食をホテルで食べられない時は、交渉してお弁当を作ってもらうようになりました。もちろん、宿泊料金に含まれているので、大助かり。今回宿泊した「オリентホテル高知」では、ごはんのお弁当とウーロン茶を用意してくれました。感謝、感謝。

ホテル前の「グランド通」停留所から路面電車で高知駅へ向う。「はりまや橋」停留所で乗換、乗り換えても別料金とはならず、とても親切。土佐電さん、ありがとう。

7:01 高知駅発。

無事に予定の電車に乗り、後免駅まで。ところが、なんとこれが特急電車。たった一駅なのに、しっかり特急料金310円を取られました。高知駅で乗るときには、なんにも言われなかったのに……。でも、この電車に乗らないと、後免駅で「土佐くろしお鉄道」の予定の列車に乗れないのです。その上、「奈半利」駅からの室戸行きバスにも乗れないのです。ここは、列車の本数が少ない上に、バスの本数も少ない、当然乗り継ぎの悪い四国なので、310円はや・ス・イ!と思います。

7:15 後免駅発。「土佐くろしお鉄道」で、終点「奈半利」駅へ。

後免駅で乗り換える「土佐くろしお鉄道」は、昨年7月に開業したばかりの第三セクター路線。真新しい車両が走っています。車窓も大きく作られ、海岸沿いに出ると、空と海とが眼前に迫ってきます。天気にも恵まれ、遠く足摺から室戸までの超一大パノラマが広がります。とはいえ、まずはホテルで用意してくれたお弁当で朝食タイム。



8:25 終点「奈半利駅」着。

駅の下にある地元物産館で、おやつやおみやげを物色。ちょうどこの日は、奈半利町の観光開きの行事が駅前で開催される様子で、スタッフがたくさんいました。普段は、閑散としているのだと思います。

乗り継ぎバスまでの間、しばし自由時間となる。昼食のことが今から心配な平山さんは、こっそり赤飯をリュックに忍ばせたようです。(注:ちゃんとお金は払いました。)



車内で一緒の車掌さんとパチリ。「平山さん、朝からにんまり、春へんろ」

9:15 バスにて「奈半利駅前」発。

ようやく来た甲浦行きバスに乗り、「室戸岬」を目指しました。高知東部交通のバスは、観光バスのお古が路線バスになったものでした。途中、乗り降りするお客さんもいますが、全員おばあさんばかりで、若者と男性の乗客はいません。病院近くのバス停で乗降客が増えるので、病院通いのおばあさんたちの専用バスといった感じです。それと目に付いたのが、新聞紙で包んだ花を持ったおばあさん。バスでお墓まいりに行くのでしょうか。病院やらお墓やら、そして私たちはお寺参り、ということではなにかやらの乗客に共通点のあるバスでした。

「病院と お墓と寺と 乗せるバス」

10:10 室戸岬、「ホテル前」バス停下車。

お大師さんがお悟りを開かれたという「御厨人窟」を参拝して、室戸岬の黒潮に洗われた「乱礁遊歩道」を歩いて、二十四番最御崎寺へのへんろ道入り口に向かいました。

太平洋に伸びた山が黒潮に削られた室戸岬周辺は、日本の渚百選の一つに数えられているそうです。お大師さん行水の池や目洗いの池など、お大師さんゆかりの場所も多いところでした。なんとといっても、「御厨人窟」から海を見たお大師さんが、その空と海の広さから空海と改名したという話には、だれもが納得できました。



11:00 二十四番最御崎寺。

岬を巡る国道からのへんろ道は、気をつけないと見過ごしてしまうほどです。道標には、灯台と最御崎寺が営んでいるユースホステルの案内しか書いてありませんから・・・。

一夜建立の岩屋の駐車場でトイレを済ませて、いよいよ遍路道に入ります。照葉樹のうっそうとした急な遍路道は、木々の間から海が見えなければ、深山の遍路道といってもいいほどです。途中2～3回ほど息を整えて、急な道を登りきると、いきなり仁王門が現れます。7時に高知を出発して、ようやく2日目最初の札所に到着です。高知からの所要時間は、なんと4時間です。



最御崎寺でお参りを済ませて、室戸スカイラインを通過して岬の西側に降ります。昔のおへんろさんは、登った道をまた岬に降りたのだと思いますが、あの急な坂道は膝への負担が大きいので、車道を降りることにしました。くねくねと曲がって降りる車道は、眼下に道が見えていながらなかなかたどり着けない、あるき遍路泣かせの道でもありました。

時間は、ある人が騒ぎ始める時間となっていました。スカイラインを降りきったところに、食堂らしき建物がありました。そんな期待感を徳島で何度も裏切られた私たちには、どうせまたやってないだろうという警戒心を持たせます。ところが、意に反し、営業しているではありませんか。あっさり食事にありつけるとは、めったにないこと。早速、店に入りありったけのうどんとカレーを注文。食事が出てくる前には、途中で買ったトマトやみかん、お菓子、そしてある人がこっそり買っていた赤飯などが広げられ、食事が運ばれる前にお腹がいっぱいになりそうな、それはそれは豪華な昼食となりました。そういえば、あの食堂の名前はなんといいましたっけ？

二十五番津照寺。

満腹になって、いざ出発。強い風に悩まされながら、いくつもの漁村を通り抜けて、いくつめかの室津漁港のそばに二十五番津照寺がありました。舵取り地蔵という海上安全のお寺だけあり、港を見下ろす高台に立つ本堂へは、急な石段を登りました。あの石段は125段もあるそうです。乱れた息を整えてからでない、般若心経は詠めませんでした。

無事納経も済ませ、漁港の町並みを抜け、国道へ出たところで小休止。忠魂碑の芝生の公園で、おやつを広げました。



二十五番
津照寺



二十六番金剛頂寺。

休憩したところから、いくらもせずに二十六番金剛頂寺の入り口につきました。津照寺からまだそんなに歩いていないのに、と思いつつ歩いていきます。なんと、平山さんが急にハイペースになり、一人先に歩いて行きます。途中でへんろ道に入るのに、大丈夫かなと思っていたら、案の定、車用の案内板につられて右に行くではありませんか。まっすぐだよーっ、という声に気づいて戻ってきました。慌てるへんろは、道を見失

う。あるき遍路は、道ばたの小さな道しるべに注意しなければならないのです。

ここからいよいよへんろ道というところで、稲田・石井両氏は大事を取って、下のドライブインで待機となりました。足が痛くて待機することにしたのか、ドライブインの看板につられて待つことにしたのかは、稲田さんに聞いてみないとわかりません。



金剛頂寺へのへんろ道からの眺め。

遠くに室戸岬が見え、スカイラインの道も見えます。あそこから歩いてきたんですね。手前の右側には、稲田さんと石井さんが休んでいるドライブインが見えます。

二十六番 金剛頂寺



16:34 「元橋」バス停より乗車。

2日目の予定は、次の神峯寺までとなっていたが、時間的に無理なので、金剛頂寺を降りて、バスにて奈半利にもどり、くろしお鉄道で高知に戻ることになりました。

奈半利の物産館で、石川先生が買い物をしたことで行ってみると、時間はちょうど5時、店はしまっていました。「たった今閉まったばかりだったわ。」と残念そうでした。

17:15 「奈半利」駅発。

夕暮れの迫る海岸線を一路高知へと戻りました。

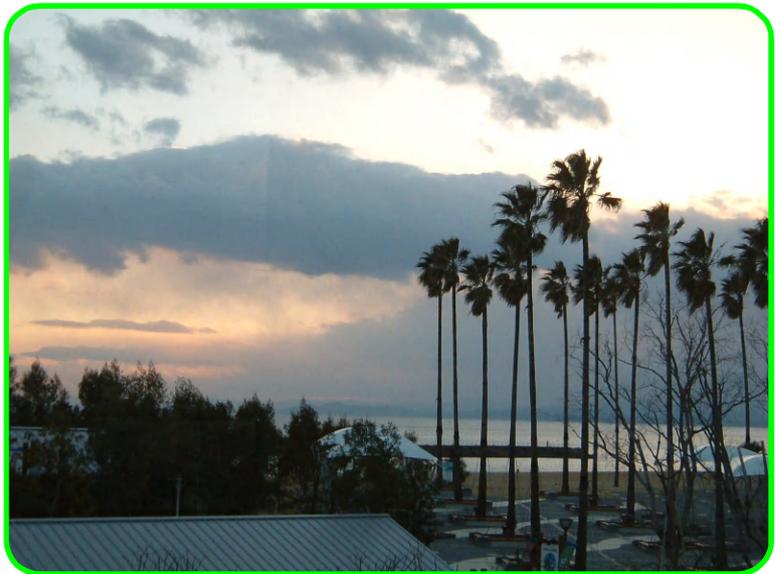
出張帰りの電車なら、ここで缶ビールをブシュッなのかもしれませんが、駅には缶ビールの自販機はなく、もちろん車内販売もありません。□惜しい稲田さんはふてねを決め込んだ様子でした。いや、ただ疲れていたのかも……。

帰りの電車は、高知駅までの直通便で、こりゃ楽だと思っていたら、後免からJR線に入ると列車待ちの多いこと。普通なら15分ほどのところを、待ち合わせ待ち合わせで30分かかりました。

高知駅から路面電車で宿に向かいました。

今夜の夕食は、稲田さんが手配した郷土料理のお店「彩季」。クジラのサエズリなんていう料理が出ました。これは、クジラの舌だそうです。ゲイタンとでもいのでしょうか。酢味噌をつけて食べましたが、好みの分かれるところだったようです。

料理もさることながら、アルバイトの女の子がきれいでびっくりしました。ちなみに、高知大学の英語科の学生だそうです。



夜須駅からの夕景。

どことなく南国ムードが漂っていました。



土佐の郷土料理で、今日の疲れは吹っ飛び、明日への鋭気をも養うことが出来ました。元気が出すぎた平山さんは、福田さんと住職を誘い、ホテルの隣の居酒屋へと姿を消しました。店の名前は、珍宝亭「バク」といい、ここで飲めば夢も見ずに熟睡できること請け合いです。だって、店の名前が夢を食べる「バク」ですから・・・。

福田さんと住職は、次の日、二日酔いに苦しめられることも知らずに、進め上手の平山さんに飲まされてしまいました。



第3日目 (3/9)

8:00 ホテル出発。

3日目は、当初の予定と大幅に変更があり、2日目に行けなかった二十七番神峯寺を目指すことにしました。

とはいえ、普段より遅い出発だったので、広渡さんと石川先生は、有名な土佐の日曜市に出かけました。高知城の下から約1キロの道路に六百もの店が並ぶんだそうです。石川先生は写真を撮るのも忘れて、いろいろ買い込んだようです。

8:30 高知駅発。

もう何回も乗ったおなじみの土佐くろしお鉄道で、「唐浜」駅まで行きます。

9:30 唐浜駅到着。

降りたのは、私たちと二人の女性おへんろさんのみ。立派な駅前広場にある、これまた立派な休憩所で身支度を整え、いざ出発。

それにしても、だれが利用するためにこんなに立派な駅前広場なのだろうと、一同疑問噴出。まあ、そんな疑問はさておき、天気は快晴、今日も気持ちのいいへんろ日和、山里にへんろの鈴の音が響き渡ります。徐々に登って、後ろを振り返ると黒潮の太平洋が一望できます。山の上を見れば、目指す二十七番の屋根らしきものも見えます。





11:10 二十七番神峯寺着。

神峯寺は、土佐の関所との異名があり、高知の難所の一つです。自動車道との交差を繰り返しながら急な坂を登って行きました。かつてはこの自動車道はなく、もっと大変だったそうです。

息も絶え絶え登りつき、今回最後の札所で般若心経を声高々と唱えました。山々にお経が響き渡り、達成感に満たされましたが、それもつかの間。あるき遍路には、これからどうやって帰るのが問題です。でも、それがあるき遍路のへんろたるところで、お参りするだけでなく、歩くこと自体が目的でもあるのです、まさに「歩々是道場」、歩き終えるまで本当の達成感は何も得られないのです。



帰り道は、昔からの遍路道を下ることにしました。急な坂がなく、膝への負担が軽いはずですが、但し、距離はちょっと長めです、と皆さんには言いましたが、本当は約7キロ、登りの2倍近くありました。



竹林と杉林が続く遍路古道です。



途中、杉林の間から、見事な棚田が見えました。

どこまで続くんだろうかというほど、ゆるやかな下り坂が続きます。



雨海さん、平山さん、清水さんの健脚トリオは、どんどん先に行ってしまう、姿は全く見えなくなりました。

1時半過ぎに、ようやく人里に下りてくることができました。遅いお昼ごはんにしよう思いましたが、帰りのくろしお鉄道の時間を調べると、2:08の「安田」駅発の電車があり、昼ごはんは売店のお弁当を買い込んで車内でというあわただしさ。なにしろ次の電車までは1時間もあり、次の電車では飛行機に間に合わなくなってしまいます。考えてみれば、ぎりぎり間に合っていたのです。

そのあわただしさの中、トイレに急ぐ人、おやつを買う人、健脚チームは早めに着いてうどんを注文してすすむ人、稲田さんは、ビールを飲むぐらいの時間はあると言いつつ、ビールをゴクリ、当然福田さんや住職もお相伴に預かりました。

14:08安田駅発のくろしお鉄道に乗車し、15:30高知駅着。

15:40高知駅前発の空港連絡バスに乗り、高知空港へ。途中渋滞していて、16:35高知空港着。すぐに搭乗手続きをして、搭乗口へ急ぐ。おみやげを買う時間もほとんどなし。17:00高知空港発、ANA568便にて機中の人となりました。

土佐は修行の道場と言われるだけあって、歩く距離が長いところが多かったようです。どうぞ体調を整えて、次回に備えてください。おつかれさまでした。



帰りの電車から見た土佐の海

写真：石川 信子、
宮田 宗格
文章：宮田 宗格
編集：宮田 宗格
平成 15 年 3 月 11 日